

令和7年9月22日

各位

会社名 株式会社アイビー化粧品
代表者名 代表取締役社長 白銀 浩二
(コード番号 4918 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 経営管理部 部長
役職・氏名 中山 聖仁
電 話 03-6880-1201

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和7年5月14日に公表致しました業績予想を、下記の通り修正致しましたので、お知らせ致します。

記

令和8年3月期第2四半期累計期間 業績予想数値の修正(令和7年4月1日～令和7年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	1,380	180	180	140	21.21
今回発表予想(B)	1,380	220	220	185	28.63
増減額(B-A)	0	40	40	45	
増減率(%)	0.0	22.2	22.2	32.1	
(ご参考)前期実績 (令和7年3月期 第 2四半期累計期間)	1,381	189	185	△186	△39.96

令和8年3月期通期 業績予想数値の修正(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,850	340	340	270	40.39
今回発表予想(B)	2,850	380	380	315	47.52
増減額(B-A)	0	40	40	45	
増減率(%)	0.0	11.8	11.8	16.7	
(ご参考)前期実績 (令和7年3月期 通 期)	2,929	422	420	43	2.44

(注) 1株当たり中間純利益または1株当たり当期純利益の計算は、第5回新株予約権の権利行使による影響を加味し、普通株式の期中平均株式数を計算しております。また、中間純利益または当期純利益からA種優先配当の会計期間に係る支払想定額を控除しております。

修正の理由

売上高の足元の推移は、当事業年度上期に新製品の発売もなく、猛暑の影響もあり、8月までの売上高は前事業年度を下回って推移していました。一方、浸透美活液の強化月間である9月に入りましてからは、強化製品である「レッドパワーセラム」の販売促進施策が奏功し、16,800 セット(前年同累計四半期実績 16,513 セット)を超える受注状況となっております。しかしながら、当第2四半期累計期間の売上高は、既存レギュラー製品が苦戦しているため、ほぼ令和7年5月 14 日に開示した水準で着地しそうです。

今事業年度は、研修動員数や販売組織新規増加数も、全体的に前事業年度を上回って推移しております。販売組織の活動が徐々に活発化してきており、愛用者づくりも順調に進んでいると考えております。

売上原価率につきましては、原材料価格の値上げも一巡し、想定よりも低い水準で推移しております。販売費及び一般管理費については、経費削減を継続しており、8月まで前事業年度を下回る状況で経費実績は推移しております。また、税務上加算していた見積費用等の一部が、減算となりますので、税金費用を軽減出来る見込です。

以上ここ近年取り組んでおります「収益力の向上」が徐々に成果を上げつつある状況を踏まえ、令和8年3月期第2四半期累計期間および通期予想につきまして、予想を修正致します。

具体的には、令和8年3月期第2四半期累計期間につきまして、営業利益予想 180 百万円を 220 百万円に、経常利益予想 180 百万円も 220 百万円に修正致します。中間純利益予想につきましては、140 百万円を 185 百万円に修正致します。

令和8年3月期通期予想につきましては、営業利益予想 340 百万円を 380 百万円に、経常利益予想 340 百万円も 380 百万円に修正致します。当期純利益予想につきましては、270 百万円を 315 百万円に修正致します。

(将来に関する記述等についての注意点)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上